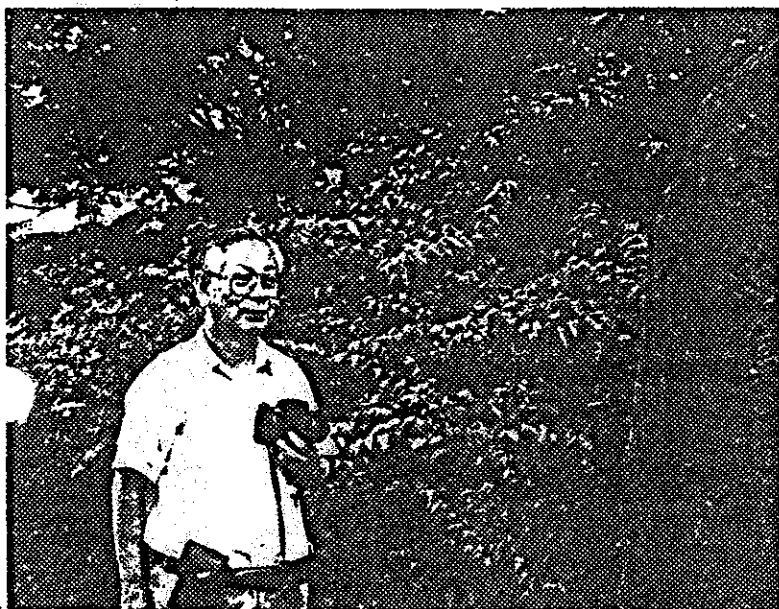




めだかの学校だより

発行：おもしろ人立めだかの学校

住所：引佐町奥山1737-286



第5回校長 三遠信山岳都市研究会

松田 不秋

山柯(上流)と
都市(下流)との
共生

空梅雨から真夏日へ、とたんに訪れた猛暑に、水不足が追い打ちを掛け、田が干上がり、台所を脅かし、プール遊びはおろか学校給食さえ滞るといふ所さえ現れた。幸いにして遠州地方は、その騒ぎをよそごとに、給水制限にも至らずに通り返け、今更のように母なる川天竜の恵みを、そして水源地域の懐の深さを思わないではいられなかった。

しかし、水に対する認識ほどあいまいなものはない。こんな時でもない限り水の有り難さを感じないどころか、水源への認識となると、それはダムのお陰だという理屈が平気でまかり通るようになってしまった。利水安定を制御する貯水装置がいかに完璧でも、不断に注ぎ込む水の涵養が滞ればたちまち機能を失うぐらいはわかりそうなもの、下流部を見詰める目に白々しさが増すばかり。確かに遠州地域は、天竜川を幾重にも塞ぎ止めたダムの恩恵をもちに享受する位置の条件を満たしている。

平成1年に一応の完結をみた天竜川下流用水事業は、佐久間ダム建設に始まった「天竜・東三河特定地域総合開発事業」の一環計画の中で進められてきたもの。40年余の歳月を経てやっと下流域の利水安定基盤の整備がなし終えられた。戦後復興を工業力の再生に懸け、エネルギー資源から水資源の確保へ、ひたすら都市の発展追及にひた走った表街道は、そのまま山間資源の収奪と農山村の犠牲の上にこそ築き上げられてきたもの、ついには人的資源まで吐き出した末に、過疎と荒廃と疲弊だけが残された。

都市への貢献度からすれば、ダム開発ばかりか製紙産業や鉱業開発など、都市資本の進出に掻き荒らされた三遠南信地域はむしろその典型、近代資本主義の光と陰のありったけを味わい尽くしてきた地域だとも言える。

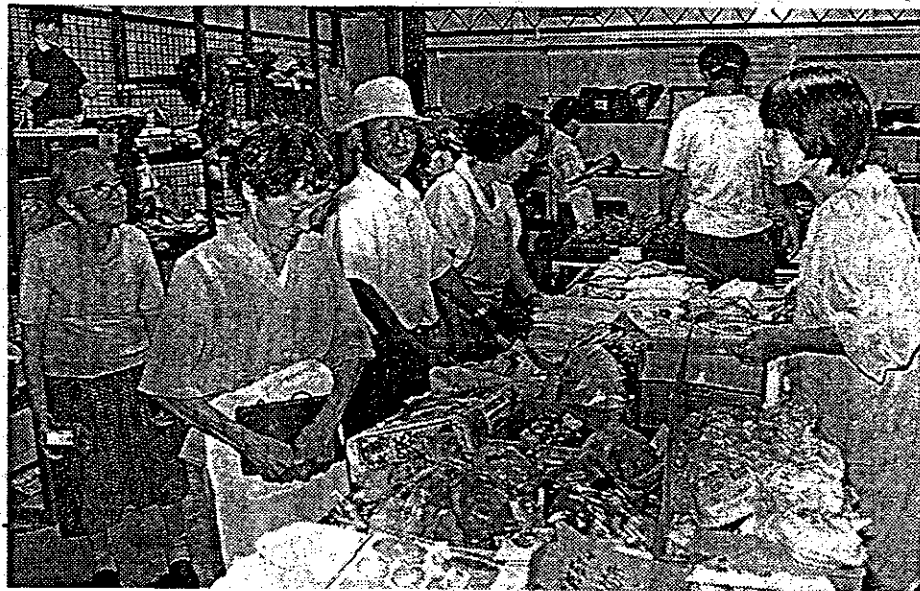
下流部の水対策がようやく完結を迎えようとしている今、皮肉なことに、ダムが堆積土砂で埋没の危機にさらされようとしている。人手不足が山林を荒廃に導き、みるみる保水力が失われつつある。さて、その後に来るものはと、身震いが走る思いで山村の現実を目を向ける人はまだ少ない。

そして、都市に住みにくさが問われ始めたとなん、美しい緑だ、空気が、自然が残された山村こそなどと、見捨てて来た者が今更身勝手な贅辞をと受け止められても仕方がない。山村は都市の植民地ではないのだから。

んな所で
す。

「めだかの生徒の協力で催された『福祉バザ』と『野立』

細江のショッピングセンター「CITY2」



「オープン・スペース SPOT」の
第一弾として開店した福祉施設のパサ
ー「細江気質の「CITY2」で

オープン・スペースづくり開放

地区民の交流や創作活動発表の場に...

細江町気質のショッピングセンター「CITY2」に初催しの施設バザ
ー「CITY2」一階の一角が福祉の場に開放された。その手作りの麻油せっけん、
第一弾として十四日から細草花の苗、ばかし、陶器、
江町の細江あすなろ作業所に施設の支援者、ボラ
所、引佐町の引佐草の根授産所、浜松市の浜松協働学
舎根洗作業所三施設による品などがずらり並んだ。初
手作り品などのバザーが始所生の父母らが店番に駆け

第一弾は福祉
施設のバザー

まった。十八日まで。付け「いらっしやいませ
同フロアを管理している」。収益金は各施設の運
同町気質の婦人服販売業土 営費用に充てられるが「不
井堅史さん」も「福祉施設でも受注減。こうし
設の皆さんと地域住民の交流の場を提供は本心に助かり
流の場にも、さらには書画や「ます」と多数の来場を呼び
花など創作活動の発表の場 掛けている。バザーは午前
に」と遊休空間だった約五十時から午後五時まで。
十平方メートル「オープン・スペース」を使いたい人
ペース SPOT」と称しは土井さん「電話053(522)0
て一般に無償で開放する(502)へ。

史志淳
上嶋裕太郎
土井堅史
大塚
神原幸雄
上嶋君のがんばりはすばれた。

めだかの学校で知りあった今井さんに、野
立の話をもちかけられてびっくり。しかし、ちや
んとカタチにのってしまいました。佐鳴湖の
風のような、爽やかなお茶会だった...と自己満足
してる。お茶を供する側から、「またやりたい」と言
われた時には、感激しました... (須山)

めだかのがつこうは
かわのなか
そつとのぞいて
みてごらん



簡易装置で浄化した佐鳴
湖の水でお茶を楽しむ人
たち「浜松市人野町で

全国で水質ワースト2の
佐鳴湖の水を簡易装置で浄
化し、飲めることを実証し
て、浄化の取り組みの機運

エジプトえんどうのたね

。次回の参加生徒さんに日本で
めだかに手に入らないエジプトのえん
どうまめのたねをプレゼントします。
ほしい方は当日受付に申し出て
下さい。提供 武井。

(注=ツタンカーメンの墓より出土した豆の全種類)

時代をさかのぼって
夢はひろがる??



つみかさの「めだか誕生」

8月7日(日)から、「めだかの学
校」にめだかがやってきました。
新しい生命も、もう誕生
しています!

全国の小学校へ
送りましょう!

クラブ活動の全2回

山野草にぴったりの
陶芸教室(鉢作り)

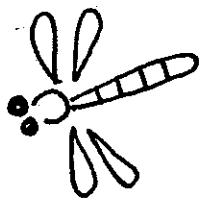
日時 10月9日(日) 10時
会費 各3,500円
(つみかさ料理付)

講師・夜辺栄治(3ヶ月)

10/8, 9, 10 山野草展

課外
活動です。
いかがですか?

充実した誌面づくりの
ため、みなさんからの原
稿・情報、お待ちしております。
おります。



みんな! いろんな
頑張っています。

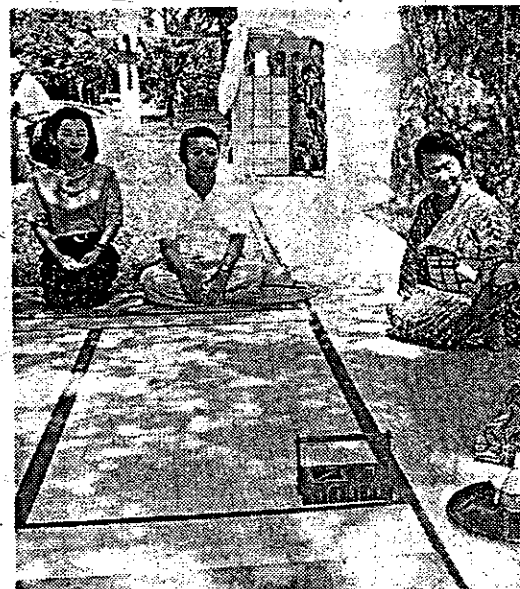


めだかのがつこうは かわのなか
そつとのぞいて みてごらん
みんなでおゆうぎ しているよ

めだかのがつこうの めだかたち
だれがせいとか せんせいか
だれがせいとか せんせいか
みんなでげんきに あそんでる

めだかのがつこうは うれしそう
みずにながれて つーいつい
みずにながれて つーいつい
みんなでそろって つーいつい

簡易浄化装置使用
佐鳴湖の水でお茶会
市民団体が開く



鳴湖野だて」が三十一日、
浜松市人野町の佐鳴湖公園
で開かれた。市民団体「佐
鳴湖コンソシアム」の会井
正夫代表(右)の主催。

佐鳴湖の水を簡易装置で浄
化し、飲めることを実証し
て、浄化の取り組みの機運
を盛り上げるのが狙い。

野だてには、裏千家の遠
藤宗芳さんが席主を務め、
琴の演奏で雰囲気づくり。
会井さんが考案、製作した
る化装置に薄緑色ににごっ
た湖水を注ぐと、約三分
後に活性炭などの十二層を
通過し、透明な水に。ほと
んどにおいもなくなり、煮
沸処理した後、お茶を入れ
た。味わった人は「やわら
かみがあったておいしい」と
話していた。

この人

（今回の先生）関京子さん



長野県下伊那郡天竜村

旧家関氏の夫人京子さん（昭和十年生まれ）

は、諏訪神社の境内に設けられた出店で、この十余年、通疎にあえぐこの里の「村おこし」の柱にと、遠い開郷のころ、修験者が伝えた彼らの保存食ともいえるべき「柚餅子」を再生し、それを現代風に加工し、この里のブランドにまで仕上げてきた。その品々を、祭に訪れた旅人に売りさばっていた。

（生活改善グループのリーダーとして活躍）



めだかの学校 校費について

・入学金 1,000円（毎年1回納付）
（平成6年9月～7年8月）

・給食費 3,000円

秋の野草料理、国内産大豆100%豆腐など今回は何か出るかお楽しみ給食です
酒類・ジュース

・宿泊費 1,000円（朝食付）

・めだか基金

（授業の内容により自主納金です。教員が集金します）

＊入学金について

入学生は、出席するしないにかかわらず納金（なければなりません）。（9月2日出席時か、又は振込が郵送。）

振込先 弘佐町協賛山支店（有）みづか信用係
（053-543-0004）（番）49222

第5回 めだかの学校（2期卒業）9月2日（金）PM6:20

場所 いはじ自然休養村「つみくさ」

PM6:20 予鈴

校歌斉唱 ^かめだかの学校

・6:30 新入生自己紹介

・6:45 1時限目 古典:

松田不秋 三信山岳都市研究会

・7:15 2時限目 生活科:

関京子 天竜村柚餅子生産組合
工場長

・7:45 3時限目 社会科:

加藤修一 (株)ミコ-711社代表

・8:15 質問の時間

・8:25 校長訓話

・8:30 給食 おたのしみ!!

○校長 松田不秋
(三信山岳研究会)

○教頭 山形美恵子
(ハマネツ・水の研究者)

○用務員 山本光男
(ホウチリ翁)

○受付 須山ゆかり
鈴木 文外

○給食係 前嶋 恭代
(予定) 永田 清

青野 綾子

牧野 文子

石野 好弘

・アバ付-金原志郎